

II 調査結果の概要

1 大分県の消費動向の特徴

地元購入率ランキングは、大分市が最寄品、買回品、専門品、贈答品の全てにおいて第1位であり、80%以上の地元購入率を占めている。中でも、最寄品は90%を超えており、高い割合となっている。中津市は4商品とも第2位であり、最寄品においては80%を超える地元購入率である。別府市は買回品、贈答品の2商品、日田市は最寄品、専門品の2商品でそれぞれ第3位であり、最寄品は第4位の別府市ともに80%を占めている。また、佐伯市も最寄品では8割弱と高い割合を占めており、その他3商品でも地元購入率が50%を超えている。ランキングの詳細は下表の通りである。

(表 II-1) 地元購入率ランキング

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位
最寄品	大分市 (n=971) (91.0%)	中津市 (n=173) (83.8%)	日田市 (n=136) (81.6%)	別府市 (n=266) (80.1%)	佐伯市 (n=178) (79.8%)	玖珠町 (n=44) (75.0%)	豊後高田市 (n=66) (71.2%)
買回品	大分市 (n=1,016) (84.6%)	中津市 (n=192) (68.2%)	別府市 (n=301) (63.1%)	日田市 (n=162) (59.9%)	佐伯市 (n=222) (55.0%)	玖珠町 (n=50) (54.0%)	豊後大野市 (n=93) (51.6%)
専門品	大分市 (n=972) (87.9%)	中津市 (n=184) (76.1%)	日田市 (n=149) (69.1%)	別府市 (n=271) (69.0%)	佐伯市 (n=207) (65.7%)	豊後大野市 (n=101) (57.4%)	宇佐市 (n=130) (52.3%)
贈答品	大分市 (n=944) (87.9%)	中津市 (n=175) (74.9%)	別府市 (n=275) (66.2%)	日田市 (n=155) (62.6%)	玖珠町 (n=44) (59.1%)	佐伯市 (n=202) (56.9%)	豊後大野市 (n=91) (53.9%)

購買力の出向状況については(図III-2-1~8、P11~21)、最寄品は一部の市町村を除いて地元で買い物が行われている。新型コロナウイルスの影響もあってか、地元で買い物を完結させる様子が見受けられる。また、商圏の形成状況について、商品種別に見ると、最寄品は「姫島村」、「九重町」を除いては、地元で商圏が完結している。買回品、贈答品は主に大分市、別府市、中津市が商圏を形成しており、専門品は主に大分市、中津市、別府市、日田市、宇佐市が商圏を形成している。

2 商品購入時に重視する点

最寄品の購入時に重視する点については、「価格が安い」が52.7%と最も高く、次いで「商品の種類や量が豊富」(49.7%)、「近くにある」(32.1%)となっている(図III-3-1、P26)。買回品については、「商品の種類や量が豊富」が49.6%と最も高く、次いで「値段が安い」(36.8%)、「商品の品質が良い」(33.8%)となっている(図III-3-2、P28)。また、専門品については、「商品の種類や量が豊富」が49.1%と最も高く、次いで「商品の品質が良い」(38.9%)、「値段が安い」(31.5%)となっている(図III-3-3)。最後に、贈答品については、「商品の種類や量が豊富」が49.6%と最も高く、次いで「商品の品質が良い」(48.0%)、「駐車場がある」(16.3%)となっている(図III-3-4、P32)。最寄品以外は商品の種類や量を最も重視する傾向がうかがえる。

3 買物の支払い方法

買物の支払い方法について、「現金」が44.1%と最も高く、次いで「基本的に現金払いだが、キャッシュレス決済による支払いもする」で30.0%、「基本的にキャッシュレス決済だが、現金払いによる支払いもする」が22.5%となっている(図III-4-1、P34)。頻度は異なるが、キャッシュレス決済による支払いを半数以上(52.5%)が行っていることがうかがえる。

年齢別にみると、10 歳代・70 歳代以上では「現金」が半数以上を占めており、他の年代に比べ高い割合となっている。20 歳代～50 歳代では「基本的にキャッシュレス決済だが、現金払いによる支払いもする」が 3 割を超えている(表Ⅲ-4-1、P35)。

4 キャッシュレス決済の利用状況

よく利用するキャッシュレス決済手段について、「クレジットカード」が 78.2%と最も高く、次いで「QRコード決済(PayPay/d 払い等) (46.8%)、「電子マネー(楽天 Edy/nanaco/WAON/QUICPay 等)」(36.2%)となっている(図Ⅲ-5-1、P36)。利用頻度については、「利用可能な店舗(場面)ではキャッシュレス決済を常に利用している」が 42.7%と最も高く、次いで「利用可能な店舗(場面)ではキャッシュレス決済を支払回数の概ね半分以下で利用している」(25.7%)、「利用可能な店舗(場面)ではキャッシュレス決済を支払回数の概ね半分以上で利用している」(24.4%)となっている(図Ⅲ-5-2、P38)。キャッシュレス決済をよく利用する店舗・サービスについては、「スーパー(総合スーパー含む)」が 54.0%と最も高く、次いで「ショッピングセンター」(52.3%)、「コンビニエンスストア」(51.9%)となっている(図Ⅲ-5-3、P40)。キャッシュレス決済を利用する理由については、「ポイント付与や割引がある」が 75.3%と最も高く、次いで「支払い手続きが簡便・早い」で 69.4%、「利用明細や支払記録が確認できる」が 19.6%となっている(図Ⅲ-5-4、P42)。キャッシュレス決済を利用しない理由については、「現金の方が便利、現金払いに特に不便を感じない」が 70.8%と最も高く、次いで「使いすぎてしまうおそれがある」で 32.2%、「手続き・利用方法がわからない」「セキュリティの面で不安がある」が 26.3%となっている(図Ⅲ-5-5、P44)。

5 インターネットショッピングの利用状況

インターネットショッピングの利用状況は 63.6%で、前回(平成 29 年度)調査より 10.3 ポイント高くなっている。利用頻度については、「利用したことが無い」が 30.6%で最も高く、次いで「月 2～3 回」が 20.0%、「それ以下の頻度」が 16.0%、「2～3 ヶ月に 1 回」が 14.4%となっている(図Ⅲ-6-1、P46)。

年齢別にみると、20 歳代～50 歳代は「月 2～3 回」が最も高く、20 歳代、30 歳代は 4 割を超えている。2～3 ヶ月に 1 回以上でみると、すべての年代において前回(平成 29 年度)調査より利用頻度が高くなっており、50 歳代では 22.6 ポイント高くなっている(表Ⅲ-6-1、P47)。

6 コロナ禍の買い物行動の変化

店舗別利用頻度について、「増えた」の中で最も高い割合を占めたのが、ネットショッピング(アマゾン・楽天市場等)の 24.1%。また、「減った」の中で最も高い割合を占めたのが、百貨店・デパートは「減った」の 42.3%であり、ショッピングセンターや大型専門店も 3 割を超えている(図Ⅲ-7-1、P52)。買い物行動の変化については、「混雑している店舗を避けるようになった」が 33.7%と最も高く、次いで「自宅近くの店舗での買物が増えた」(32.4%)、「買い物行動に特に変化はない」(22.3%)となっている(図Ⅲ-7-2、P53)。新型コロナウイルスの影響により、前回(平成 29 年度)調査と比べてネットショッピングでの利用率が高くなり、買い物に対する意識の変化が見受けられる。

7 居住地域の商店街の利用状況

居住地域の商店街の利用状況については、「近隣に商店街がない」が 27.5%と最も高く、次いで「利用しない」(23.1%)、「年に数回」(14.5%)となっている(図Ⅲ-8-1、P55)。年齢別では、前回(平成 29 年度)調査と

比較すると、70歳代以上は24.5ポイント減少、60歳代は34.7ポイント減少しており利用頻度の減少が顕著となっている(表Ⅲ-8-1、P56)。居住地の商店街を利用しない理由については、「買いたい商品などを取り扱う店が少ない(無い)」が54.0%と最も高く、次いで「駐車場・駐輪場が少ない」(39.6%)、「品揃え・サービス内容がよい店が少ない(無い)」(35.2%)となっている(図Ⅲ-8-2、P57)。

商店街に充実してほしい取組としては、「駐車場や駐輪場の整備」が40.4%と最も高く、次いで「共同売り出し(セール・福引等)」(30.3%)、「空き店舗の利活用(新規店舗の導入など)」(28.1%)となっている(図Ⅲ-8-5、P63)。年齢別にみると、10歳代～30歳代は「祭りをはじめとする集客イベントなどの地域の賑わい創出」や「キャッシュレス決済の推進」が他世代と比べて高く、取組に期待している傾向がうかがえる。